

ねん がつふつ か  
2024年6月2日

せいたい しゅじつ  
キリストの聖体の主日

きくち いさおだい しきょう  
菊地 功大司教 メッセージ

しゅ さいご ばんざん せいたい ひせき せいいてい しゅごじしん ちよくご  
主イエスは、最後の晩餐において聖体の秘跡を制定されました。主御自身は、その直後  
にご自分が捕らえられ十字架への道を歩むことで、最愛の弟子たちとの別れが迫っている  
こと、そしてその弟子たちがこれから起こる出来事のあまりの衝撃に打ちのめされ、恐  
れにとらわれてしまうことをご存じでした。まだまだ弟子たちに伝えたいことは多くあ  
ったことでしょう。その弟子たちへの思い、そして弟子たちを通じてわたしたちすべて  
への思いを込めて、主はパンをとり、「わたしの体である」とのべ、また杯をとって  
「わたしの血である」とのべられました。主の心持ちは、その次のことば、すなわち、  
「わたしの記念としてこれを行いなさい」に込められています。「わたしのことばを、  
わたしの行いを、決して忘れるな」という切々たるものであります。すべての思いを込  
めて、すべての愛を込めて、主は聖体の秘跡を制定され、愛する弟子たちに残して行か  
れました。

しゅ おも ひび く かえ あずか せいいたい はいりょう  
この主の思いは日々のミサにおいて繰り返され、わたしたちがミサに与り、聖体を拝領  
するごとに、あの晩、愛する弟子たちを交わりの宴へと招かれた主イエスの御心が、  
わたしたちの心を満たします。

きょうこう にせい きょうかい あた せいいたい しる  
教皇ヨハネ・パウロ二世は、「教会にいのちを与える聖体」に、こう記しています。

きょうかい すぎこし しんぴ う すぎこし しんぴ め み  
「教会は過越の神秘から生まれました。まさにそれゆえに、過越の神秘を目に見えるか  
たちで表す秘跡としての聖体は、教会生活の中心に位置づけられます。(3)」

うえ きょうこう せいいたい しんじや きょうどうたい すく げんそん  
その上で教皇は、「聖体は、信者の共同体に救いをもたらすキリストの現存であり、  
共同体の霊的な糧です(9)」と記し、聖体が個人的な信心のためではなく、共同体の霊的  
な糧であることを明示します。

せいいたい きょうどうたい ひせき じたい きょうどうたい さいぎ せいいたい ひとり  
ご聖体は共同体の秘跡です。そもそもミサそれ自体が、共同体の祭儀です。聖体は一人

で受けたとしても、<sup>きょうどうたい まじ</sup>共同体の交わりのうちにわたしたちは<sup>せいたい</sup>ご聖体をいただきます。それは<sup>しさい</sup>司祭がひとりで<sup>ささ</sup>ミサを捧げても、<sup>こじん しんじん</sup>個人の信心のためではなく、<sup>きょうどうたい まじ</sup>共同体の交わりのうちに<sup>ささ</sup>ミサを捧げるのと同じであります。<sup>せいたい きょうどうたい ひせき</sup>ご聖体は、共同体の秘跡です。

<sup>きょうこうさま</sup>教皇様は<sup>ねん せいねん</sup>2025年の聖年のテーマを「<sup>きぼう じゅんれいしゃ</sup>希望の巡礼者」とされることを<sup>けつてい</sup>決定され、<sup>せんじつ</sup>先日の<sup>しやうてん しゆじつ</sup>昇天の主日に、<sup>せいねん ふこく だいちよくしよ</sup>聖年を布告する大勅書「<sup>きぼう あざむ</sup>Spes non confundit (希望は欺くことはありません)」を<sup>はつぷよう</sup>発表されました。その中で<sup>なか きょうこうさま きょうかいきょうどうたい とぎ</sup>教皇様は、教会共同体が時のしるしを読み取り、<sup>そうごうてき にんげんかいはつ してん にんげん そんげん じょうきょう ひと</sup>総合的な人間開発の視点から、人間の尊厳をおとしめるような状況にある人たちに<sup>い きぼう きょうどうたい もと</sup>いのちを生きる希望をもたらす共同体であることを求められています。そのために、<sup>じゅんれい たん こじん しんじん もんだい きょうどうたい あゆ なか</sup>巡礼というのは、単に個人の信心の問題なのではなく、共同体としてともに歩む中で、<sup>きょうかい しゃかい きぼう う だ あゆ なか であ ひとびと きぼう そんざい</sup>教会こそが社会にあって希望を生み出し、歩みの中で出会う人々に希望をもたらす存在となる<sup>じゅうよう してき</sup>ことが重要であると指摘されます。

ともすれば<sup>せいねん</sup>聖年にしても、<sup>せいたい</sup>ご聖体にしても、<sup>こじん しんじん してん い み きぐ</sup>個人の信心の視点から意味を探ろうとして<sup>いまわし もと</sup>しまいますが、今私たちに求められているのは、まさしく<sup>てき きょうかい</sup>シノドス的な教会として、<sup>あゆ</sup>ともに歩むことによって、<sup>しゅ げんそん つ し きぼう</sup>主の現存を告げ知らせ、希望をもたらす<sup>きょうかい</sup>教会となることです。

<sup>ばん せいたい ひせき せいいてい しゅ</sup>あの晩ご聖体の秘跡を制定された主は、<sup>じょうきょう</sup>どのような状況にあっても、いつもわたしたちとともに<sup>あゆ</sup>歩んでくださいます。